

項目	6 犬や猫の殺処分ゼロに向けた取組について
答弁者	健康福祉部長
質問要旨	<p>県では、令和7年度の開所を目指し、富士市内に（仮称）静岡県動物愛護センターの整備を進めている。今後、県の動物愛護の拠点となることが求められている。</p> <p>県の令和4年度の殺処分頭数が、犬と猫を合わせて102頭であったことは、10年前である平成24年度の4,906頭と比べると殺処分ゼロに大きく近づいている。県と共に取り組んできた関係者の努力を評価したい。特に、動物愛護ボランティアの活動が、これまで殺処分の減少に大いに御貢献いただいている。しかし、動物愛護ボランティアに頼るだけでは、殺処分ゼロの達成は難しく、県の直接的な取組が望まれる。また、今後進む高齢社会により、高齢飼い主からの犬や猫の引取りの増加が予想され、新たな飼い主につなぐ活動が今以上に増え、動物愛護ボランティアの活動負担も大きくなると思われる。</p> <p>そこで、動物愛護の拠点として新たに整備される（仮称）静岡県動物愛護センターにおける殺処分ゼロに向けた取組について、県の考えを伺う。</p>

<答弁内容>

犬や猫の殺処分ゼロに向けた取組についてお答えいたします。

これまで、保健所が保護又は引き取った犬や猫は、動物愛護ボランティアの協力を得て、新たな飼い主に譲渡されてまいりました。特に、人に慣れていない犬や猫の譲渡までにかかる時間や労力及び譲渡会場の確保等が、ボランティアの負担となっております。

新たに設置する（仮称）静岡県動物愛護センターでは、収容機能を拡充し、犬20頭・猫90頭の長期飼育ができる空調付きの部屋を設け、人に慣れず譲渡が難しい犬や猫も、時間をかけて訓練した上でボランティアに引き継ぎ、確実な譲渡につなげてまいります。

また、ボランティアの譲渡会場として、センターの研修ルームを貸し出し、会場確保の負担軽減を図るほか、啓発展示エリアでは、ボランティアの譲渡会等の活動も紹介し、新たな飼い主の拡大を図ります。

加えて、高齢の飼い主が増加する中、センターでは飼い方教室を開催し、引き取る犬や猫が増えないよう、家族等で最後まで飼育する必要性を啓発してまいります。

以上であります。

県といたしましては、今後も引き続き、ボランティアの皆様の負担軽減を図りつつ協働して、殺処分ゼロの達成に向け取り組んでまいります。